

平成27年3月期  
第2四半期連結決算説明資料

---

 **和弘食品株式会社**

**JASDAQ**

証券コード 2813

## 外部環境

- ・日本経済は、アベノミクス効果による円安・物価上昇により個人消費が低調に推移。
- ・食品業界では、悪天候の影響で夏物商品の消費が低調に推移するなか、原材料の高騰、人手不足、電気・燃料の高騰等が加わり、厳しい状況が続く。

## 当社グループの取り組み

- ・外食・中食向けの業務用調味料の拡販を図るため、各種展示会への参加、試食提案会を積極的に行い提案営業を強化。
- ・インターネット集客サイト「ラーメンスープ・タレ.com」の充実。
- ・「ラーメンスープ・タレ調味料総合カタログVol.2」を製作し、提案営業を強化。
- ・原材料費等の上昇を抑制すべく購買業務を見直し。
- ・米国子会社では、工場建設も佳境に入り、工場稼働後を見据えた営業活動を積極的に推進。

- 1 . 平成27年 3 月期 第 2 四半期連結決算概要
- 2 . 平成27年 3 月期 第 2 四半期個別業績概要
- 3 . 補足資料
- 4 . 経営方針

# 1 . 平成27年3月期 第2四半期連結決算概要

- ・流動比率（173.9%）、自己資本比率（66.3%）等、高水準の財務体質を維持。
- ・連結売上高は、前期からほぼ横ばいで推移。
- ・当社グループ保有の外貨建債権に係る為替変動の影響により、61百万円の為替差益が発生。
- ・米国子会社では、工場建設も佳境に入り、現地生産・販売体制確立に注力。

# 連結貸借対照表概要

資 産	平成26年3月期		平成27年3月期 第2四半期		増減		ポイント
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	前期比 (%)	
流動資産	2,690,838	45.7	2,791,003	44.5	100,164	3.7	受取手形及び売掛金の増加額171百万円、 棚卸資産の増加額53百万円。
固定資産	3,119,754	52.9	3,406,352	54.3	286,597	9.2	米国子会社の工場設備等に係る建設仮勘定の 増加額324百万円。
繰延資産	82,290	1.4	76,481	1.2	5,809	7.1	
資産 合計	5,892,883	100.0	6,273,837	100.0	380,953	6.5	
負 債 ・ 純 資 産	平成26年3月期		平成27年3月期 第2四半期		増減		ポイント
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	前期比 (%)	
流動負債	1,202,567	20.4	1,605,000	25.6	402,433	33.5	短期借入金の増加額500百万円。
固定負債	562,822	9.6	508,000	8.1	54,822	9.7	長期借入金の返済による減少額50百万円。
純資産	4,127,493	70.0	4,160,836	66.3	33,342	0.8	
負債・純資産 合計	5,892,883	100.0	6,273,837	100.0	380,953	6.5	

区分	平成26年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期(予想)	平成27年3月期 第2四半期	対前年増減	対予想増減
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)
売上高	2,857,645	2,959,757	2,904,952	47,307	54,805
売上総利益	718,895	724,405	713,431	5,463	10,973
営業利益	102,452	48,060	53,487	48,965	5,426
経常利益	140,629	40,120	110,364	30,265	70,243
当期純利益	91,124	5,179	42,744	48,379	47,924

# 連結キャッシュ・フロー概要

区分	平成26年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減	ポイント
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,492	109,361	299,853	主に売上高の季節的変動による売掛金・棚卸資産の増加。
投資活動によるキャッシュ・フロー	156,136	381,941	225,805	主に米国子会社の工場設備等に係る建設仮勘定の増加。
財務活動によるキャッシュ・フロー	120,060	378,615	498,675	主に短期借入金による増加。
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,491	36,438	32,947	
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	82,212	76,248	5,964	
現金及び現金同等物の期首残高	1,504,060	1,314,446	189,614	
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,421,847	1,238,197	183,650	



## 2 . 平成27年3月期 第2四半期個別業績概要

- 売上高は、別添用（主に小袋製品）が前期比4.9%減少したが、業務用が前期比7.5%増加し、前期からほぼ横ばいで安定的に推移。
- 営業利益は、前期比11.7%減の120百万円。  
経常利益は、前期比4.0%増の189百万円。  
当期純利益は、前期比7.8%減の122百万円。
- 原材料等の高騰により売上原価が増加。
- 個別業績は、米国子会社の費用負担を支えるべく、堅調を維持。

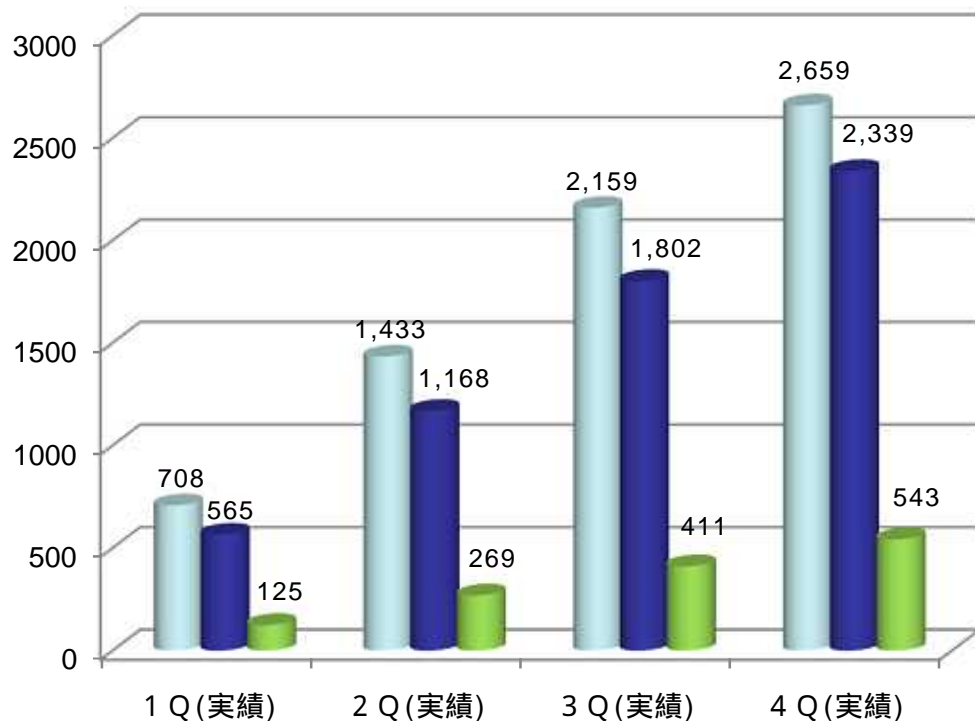
# 個別損益計算書概要

区分	平成26年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期(予想)	平成27年3月期 第2四半期	対前年増減	対予想増減
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)
売上高	2,871,126	2,948,001	2,901,237	30,110	46,764
売上原価	2,143,951	2,225,359	2,190,340	46,389	35,018
売上総利益	727,175	722,642	710,896	16,278	11,745
販売費及び一般管理費	590,255	599,352	589,979	275	9,372
営業利益	136,919	123,289	120,916	16,003	2,372
営業外損益	45,140	3,580	68,388	23,247	64,808
経常利益	182,060	126,869	189,305	7,244	62,435
特別損益	30,651	300	0	30,651	300
税引前当期純利益	212,711	126,569	189,305	23,406	62,735
法人税等	80,156	45,000	67,139	13,017	22,139
当期純利益	132,555	81,569	122,165	10,389	40,595

# 品目別売上高の推移・予想

平成26年3月期 品目別売上高（累計）

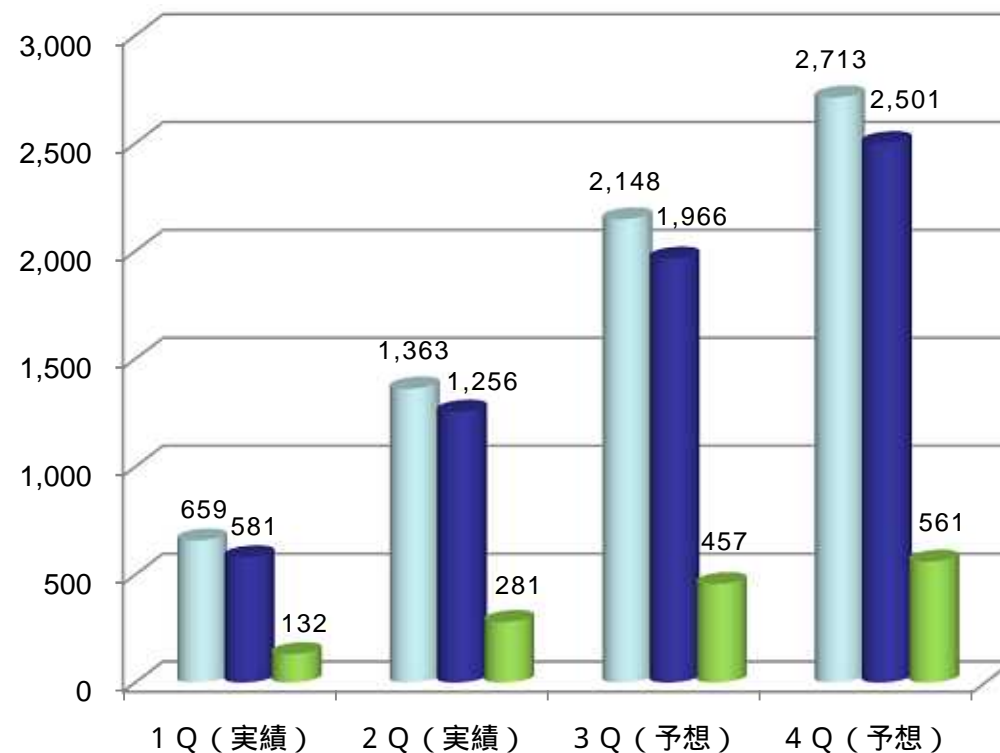
（単位：百万円）



	1 Q (実績)	2 Q (実績)	3 Q (実績)	4 Q (実績)
別添用	708	1,433	2,159	2,659
業務用	565	1,168	1,802	2,339
その他	125	269	411	543
合計	1,398	2,871	4,373	5,542

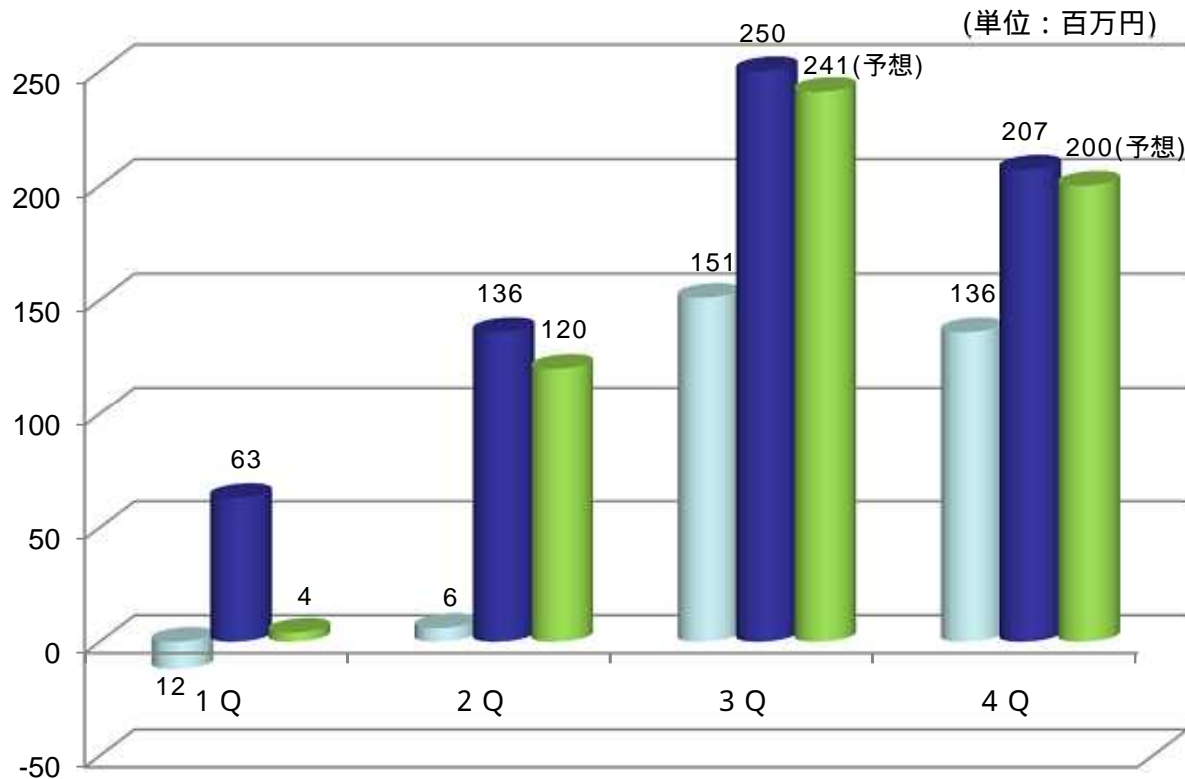
平成27年3月期 品目別予想売上高（累計）

（単位：百万円）



	1 Q (実績)	2 Q (実績)	3 Q (予想)	4 Q (予想)
別添用	659	1,363	2,148	2,713
業務用	581	1,256	1,966	2,501
その他	132	281	457	561
合計	1,373	2,901	4,571	5,775

営業利益の3期推移・予想（累計）



	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
平成25年3月期	12	6	151	136
平成26年3月期	63	136	250	207
平成27年3月期 (3、4 Qは予想数値)	4	120	241	200

- 当社の業績に大きな影響を及ぼす為替差損益の影響を受けない本質的な収益力を表す利益指標である営業利益の3期推移。
- 原材料費等の上昇を抑制しつつ、当期は前期とほぼ同等の利益水準で安定的に着地予定。

## 3 . 補足資料

物価上昇、為替相場の変動等により、主に下記の原材料が高騰。今後も一部の原材料では、約7%～10%の値上げが実施されると想定。

また、天候不順による不作、世界的な食糧需給問題等の影響から原材料不足も懸念される。

品目	要因
ゴマ類	天候不順による不作、中国の需要拡大による影響から原料相場が高騰。為替相場の変動による影響も大きな要因。
ラード・エキス類	豚流行性下痢（PED）の発生による影響から豚副産物が不足し、原料相場が高騰。
うま味調味料	為替相場の変動による影響。

## 4 . 経営方針



## (1) 会社の経営の基本方針

### 【経営理念】

- ・ 誠実な企業活動を通じて社会に貢献する
- ・ 常にお客様の満足度の向上を目指し風通しの良い社風の醸成を図るとともに絶え間なく業務の改革・改善に努める
- ・ 食文化の創造と発展を通して企業価値を創造し着実に利潤を追求して取引先・社員・株主の相互繁栄を図る

### 【経営ビジョン】

- ・ 業務用調味料メーカーとして商品開発・生産技術・品質保証体制で他社の追随を許さないプロのためのプロ企業として強固な財務体質と高収益を誇る小粒だが光り輝く高付加価値企業となる

## (2) 目標とする経営指標

当社の利益配分の基本方針に従って、長期的な安定配当を維持継続し、企業価値の増大による利益還元を行うことに注力し、自己資本当期純利益率5%を目標とする

---

本資料に関するお問合せ



広報・IR室

TEL : 0 1 3 4 - 6 2 - 0 5 0 5

E-mail : IR@wakoushokuhin.co.jp